

読 響
YOMIKYO
Yrs.
1962-2022

MASATO SUZUKI ANTHONY TAMESTIT

YNSO Associate Conductor
& Creative Partner

この日常が続くのならば、

MASATO SUZUKI: YNSO 60th Anniversary Commissioned Work (World Premiere)
WIDMANN: Viola Concerto (Japan Premiere)
SCHUBERT: Symphony No. 5 in B flat major, D485
Yomiuri Nippon Symphony Orchestra Subscription Concert No. 626
Thursday 9 March 2023 19:00 Suntory Hall

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会
協力：アフラック生命保険株式会社

読響

YOMIKYO
Yrs.
1962-2022

クラシック音楽は、
今の時代に生きているのか…。
マサトは、この問いと共に生きている。

鈴木^{マサト}の両親は、J.S.バッハの演奏と研究に人生を注いでおり、
当然のようにマサトも生まれながらにクラシック音楽の最も
クラシックな部分と寄り添ってきた。一方、東京芸大の作曲科で
学び、若い頃から同時代の音楽にも大きな関心を持ち、
音楽活動を展開している。彼は、今を表すために
音楽の歴史を探求する一方、古典派の音楽から
新たな魅力を見出すことを続けているのだ。

3月9日、今の時代に生きている“クラシック”を
ビビッドに感じられる刺激的な夜になる。

この日だけは思い切り叫べば良いだろう

鈴木優人 指揮者/クリエイティヴ・パートナー
鍵盤奏者、作曲家、指揮者として活躍する新時代のアーティスト

アントワヌ・タメステイ ヴィオラ
ウィーン・フィルなどと共演する現代最高峰のヴィオラ奏者



鈴木優人:読響創立60周年記念委嘱作品(世界初演)
ヴィトマン:ヴィオラ協奏曲(日本初演)
シューベルト:交響曲第5番 変ロ長調 D485

読売日本交響楽団 第626回 定期演奏会
2023年3月9日(木) 19:00 サントリーホール
S¥7,600 A¥6,600 B¥5,600 C¥4,100

主催:読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会
協力:アフラック生命保険株式会社

ductor

Viola



叩いて、
歩いて、
叫んで壊せ！

マサトとタメスティが、クラシック音楽を拓く

3月9日、マサトは、読響が創立60周年を迎えた節目となる2022年度最後の《定期演奏会》の指揮台に上がる。まずは自身の作曲による新作を披露。東京芸大で尾高惇忠に師事し、オランダでも数々の作品を書いてきたマサトの新たなオーケストラ作品に期待したい。読響とのコンサートの思い出や「60」という数字にインスピレーションを得ながら、アフター・パンデミックの新時代を切り拓く曲を生み出すに違いない。

続いて、世界的ヴィオラ奏者のアントワヌ・タメスティを独奏に迎え、ドイツの現代作曲家イェルク・ヴィトマンのヴィオラ協奏曲を日本初演する。タメスティとマサトはJ.S.バッハ作品を録音し、欧州の音楽祭を回るなど相性は抜群だ。二人のフィーリングが合うのは、音楽への飽くなき探求という共通点があるからだろう。タメスティがヴィオラの新たな可能性を追求し続けた結果、彼の委嘱によりヴィトマンの傑作が生まれた。楽器を叩くことに始まり、オーケストラの中を歩き回る、弓で空中を切る、叫ぶなど、既成概念を破るアイデア満載で奇想天外な協奏曲となっている。Concertoという言葉は、ラテン語で「論争する」という意味の動詞が語源とされるが、まさにヴィオラとオーケストラが幾多の議論を交わすような丁々発止の音楽が聴けることだろう。

後半、マサトはシューベルトの交響曲第5番を指揮する。この曲は、決して“大きな”交響曲ではない。1816年、19歳のシューベルトが、クラリネット、トランペット、ティンパニを用いない編成で書いた。明るく、快活さがあるのに、どこか内に秘めた陰を感じさせる。ここに繊細なシューベルトの革新性がある。短い序奏とシンプルな構造、突然のゲネラルパウゼ、意表をつく転調など、聴けば聴くほど創意工夫に満ちている。マサトのタクトは、これら作曲家の仕掛けを明らかにし、古典派からロマン派への橋渡しを行ったシューベルトの革新性を露わにするだろう。

鈴木 優人

指揮者／クリエイティヴ・パートナー

マルチな才能で新時代を切り拓く気鋭。2020年4月から読響指揮者／クリエイティヴ・パートナー。東京芸術大学及び同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。指揮者として国内外の楽団と共演するほか、鍵盤楽器奏者としても活躍している。13年から調布国際音楽祭のエグゼクティブ・プロデューサー。18年にパッサ・コレギウム・ジャパン(BCJ)首席指揮者に就任。BCJオペラシリーズのプロデュースを務め、20年の「リナルド」などで高く評価された。22年には、「オルフェオとエウリディーチェ」で新国立劇場に指揮者として初登場。NHK-FM「古楽の楽しみ」にレギュラー出演中。齋藤秀雄メモリアル基金賞など受賞多数。21年に芸術選奨文部科学大臣新人賞。22年に渡邊曉雄音楽基金音楽賞を受賞。

アントワヌ・タメスティ

ヴィオラ

今世界で最も活躍しているヴィオラ奏者。パリ生まれ。ミュンヘン国際など4つの国際コンクールで優勝。バロックから現代作品まで幅広いレパートリーを誇り、ヴィトマン、エスケシュ、ノイヴィルトらの作品を世界初演している。ガーティナー、ラトル、ティレマン、ロト、ハーディングらの指揮で、ウィーン・フィル、ボストン響、バイエルン放送響、ロンドン響、ドレスデン国立歌劇場管などと共演。ハルモニア・ムンディから数多くCDをリリースし、鈴木優人との「J.S.バッハ: ヴィオラ・ダ・ガンバ・ソナタ」は絶賛された。2013年から今井信子と共にヴィオラ・スペースの企画・プログラミングに携わっている。楽器は、ハビスロイティンガー財団より貸与された1672年製ストラディヴァリウス。

読売日本交響楽団 第626回 定期演奏会

2023年3月9日(木) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C ¥4,100

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。
■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyo.or.jp/>